日時:令和6年3月14日(木)13時30分～15時00分

場所:鎌倉市役所本庁舎2階 201 会議室

出席者:小林教育文化財部長(会長)、小日山教育文化財部次長(副会長)、河合深沢中学校長、上田富士塚小学校教頭、住吉第二中学校教頭、村上稲村ヶ崎小学校教諭、合田腰越中学校教諭、事務局(学務課石川担当課長、大澤担当係長、花村担当係長)

1 開会あいさつ(会長)

- ・この協議会の所掌事務ではないが、先日、教職員の懲戒処分があった。メンタル面の不調で起きた事案ではないと認識しているが、教職員の精神的な安定を図る取組みはこの協議会でも行っていくべきことである。
- ・本日は、学校訪問産業医 橋本先生にご出席をいただいている。橋本先生には、長年にわたり、長時間勤務の教職員面接指導を担当していただくとともに、この安全衛生協議会発足時の令和元年度から、ご出席いただき、長時間勤務の身体への影響等についてお話をいただいている。本日の報告事項である公務災害、協議事項である鎌倉市学校職場環境改善プランについて、産業医として忌憚なくご意見をいただきたい。

2 鎌倉市立学校教職員安全衛生協議会委員紹介

所用により、小日山教育文化財部次長、坂井山崎小学校長が欠席

3 学校訪問産業医あいさつ

市役所の産業医として相談業務を受けているが、その内容は長時間労働の対策に尽きるといっても過言ではない。また、内科として、労働者の消化器系や整形外科の慢性疾患から手術、リハビリ、復職までを見てきた。学校現場においても、これまでの知見を活かしていきたい。

鎌倉に限らないと思うが、学校はまとまった土地が必要なので、立地条件が悪いことが多い。主に水回りに問題があると思っている。水が抜けにくいからか、暗渠の周りを見ると苔が生えていたり、山に隣接している壁から腐ってきたりしている。鉄製の手すりが腐食して落ちたこともあった。自然が相手なので対策は難しいが、人の注意力を働かせる必要がある。細かいところだと、どうしても児童生徒中心になるので、教職員のロッカールームが湿気が多くてカビが生えやすいということも聞いているので、校舎建替えの際には換気設備に気を付けていただきたい。

3 報告事項

(1) 公務災害発生状況について

<事務局>

令和元年度から4年度までの公務災害・通勤災害の発生状況だが、校種別では小学校16件、中学校7件となっており、体育や休み時間等に児童と関わる時が多く、特に40歳以上では、物に躓いたり滑って転倒するケースが見られた。全体で見れば、男女比・年齢層ともに偏りがなく、公務災害は誰にでも起こり得るといえる。

なお、令和5年度(3月1日時点)では、認定結果前の申請中も含めて、公務災害が5件、通勤災害が1件、発生している。

日頃の整理整頓や清掃、教職員同士の声掛けのほか、余裕を持った行動を心替え、事故防止に気を付けるよう、この後の協議事項「安全衛生通信」の中で啓発したいと考えている。

<意見交換>

- 公務災害は、気を付けていても不意に起きる。
- 体育や部活、休み時間中に遊ぶなど、スポーツをしていて起きることが多いと感じた。当たり前のことだが、準備運動は大切である。
- 先生の怪我はよく聞かすが、裁断機など設備によるものは安全対策を立てられると思う。
- 児童生徒と接する場面で起きたケースもある。距離感や接し方でカバーできることがあるといい。
- 教職員ではないが、児童生徒の救急搬送の事案報告が近年多い。コロナ禍により外で遊ぶことが減っていた反動だと思う。
- 産業医：捻挫など整形外科の怪我が多く見られる。厚生労働省の労働衛生資料によると、製造業や運送業など、製造レーンに付いたり荷物を運んだり、共通して人が歩く職場では、躓き事故が多い結果が出ている。
- 学校は、職員室の事務から、裁断機など資料づくり、そして体育や部活など、1日でも様々な場面があるので、個々に安全対策を立てる必要がある。
- 運送業などは始業時の準備体操があるが、学校だと始業時にまとまった時間を確保できない。

4 協議内容

(1) 鎌倉市学校職場環境改善プランⅡにおける次期計画の策定について

<事務局>

前回は報告したが、令和6年度では、スクール・サポート・スタッフについては、文部科学省から示された令和6年度予算の概算要求どおり、今年度と比較して大幅増となった。ほか、スクールロイヤー、ICT支援員、プール・ロスナイ清掃の委託も加わり、明日15日の議決が得られれば、更なる支援の充実が予定されている。

これまでの職場環境改善プランとその取組みを振り返ると、プランⅠでは、校務支援システムによる出退勤時刻の管理、夏季休業中の閉校日の設定、夜間留守番電話の設定、小中学校全校の普通教室に冷房設備設置、部活動の休養日の設定、職印が必要な文書の精選、学校トイレの改修計画前倒しを行った。

現行プランⅡでは、スクール・サポート・スタッフの全校配置、給食会計の公会計化、ICT導入による印刷業務や採点業務の軽減、給食室等の冷暖房設備の設置、校務支援システムによる出欠席管理や成績処理等の事務効率化、市費による人的支援の拡充(学級介助員、非常勤講師、スクールソーシャルワーカー)を行った。

特に、次年度に予定されるスクールロイヤー、ICT支援員、プール・ロスナイ清掃の委託については、令和4年度に実施した学校職場改善プランの実施効果アンケートで要望のあった新規取組である。当時の安全衛生協議会でアンケートの質問内容を精査しており、そのアンケート結果から新たな事業にまで昇華できたことで、改めてこの安全衛生協議会が大変有意義な場だと感じている。

これからも安全衛生協議会等を通じて、議論を重ねながら、取組みの継続・拡充、場合によっては見直し・廃止も含めて、検討したいと考えている。

ただ、前回の協議会でも委員から発言があったが、これらの事業を実施したから、劇的に何かが改善されるわけではなく、時間を短縮するだとか会議を精選しようだとかに焦点を当てると苦しくなるばかりで、教職員のやりがいや働くモチベーションが上がってこないんじゃないか、それでは子どもたちのためにならないのではないかと教育委員会としても懸念している。

鎌倉市教育委員会では、次期教育大綱の改訂を令和7年に行う予定である。目指す教育の姿・方針を踏まえ、これらと調和を図るため、計画始期を一致させることで、より実効的な取組みに繋げたい。また、学校と市教育委員会だけではなく、外の力も借りながら、子供たちにとって必要なものは何か、そのための教育活動

の充実や教職員のモチベーション向上の方策、組織としての学校運営の強化、そして教育委員会の支援など、一体に見ながら働き方改革の方針を検討していきたい。

そこで、プランⅡの次期計画の策定については、4月からの策定をせず、現プランⅡの計画期間を1年間延長し、次年度はこれからの教職員が働くモチベーションを上げるための業務・環境改善を、教職員と一緒に考えていく期間にしたい。

繰り返しになるが、これまでの業務負担を軽減する取組みを止めるということではなく、教職員に苦勞を強いるようなことを望んでいない。積み上げてきた業務改善や職の担い手の見直し、そしてそれに向けた予算措置等は、行政経営として継続していくことは当然である。

この後の意見交換では、業務改善の視点は一度置いていただき、今後の働き方改革の方針・方向性についてご議論いただきたい。

<意見交換>

- 中間管理職として教頭が1校1人の中、スクール・サポート・スタッフの増員はありがたい。
- プール清掃で怪我をすることもあるので、委託でやっていただけると助かる。
- 学校ができることとして、授業時数や行事の精選など、必要な時間と児童生徒に伝えたいことを厳選することで、少しでも働き方が改善できればと考えている。
⇒ 授業時数を見直すことに踏み込んでいかないと、劇的な改善はないと思う。午後2時くらいに児童生徒が帰り、その後で会議や事務、授業準備をやって定時に帰れるとよいが、今までやってきたことを変えるのは難しい。市役所では行政改革として事務を見直すことはしてきたが、教育現場では人、子ども相手であり、極端に授業時間を短くすれば保護者への影響も考えなければならない。試行している自治体もあるので、学力の低下など影響がないことが実証されれば動きやすいか。
- 標準時間数が気になる。今のカリキュラムでやっても、特に高学年ではどう工夫しても足りないと感じている。
⇒ 標準時間数は厳守すべきものなのか。文部科学省の調査では、標準時間数を満たさない学校もあるようだ。
⇒ 多様な学びの学校では、時間数を少なくして検討している。学校のカリキュラムをどう組むのかが問題である。
⇒ 指導要領の内容では、時数ではなく、やらなくてはいけないことをクリアできることが前提となっている。そのためにこれくらいの時間が必要だと示されたものが標準時間数となる。
- 低学年だと午後疲れてしまう問題もある。
- 同じ地域として、各学校が足並みを揃えられるか。時間数を減らして学力低下を招いては、本末転倒である。
- 自由進度学習により働き方改革を行う自治体もある。、どれくらい子供たちに教職員が入っていくかを考え、今後の働き方改革を考えていくべきではないか。
- 標準時数と不登校の関連はどうか。仮に標準時数を減らして学力が低下しても、学校に登校できる子が増えた場合、学びの場に来てもらうことが子どもにとってより良い教育ビジョンとならないか。
- 教育大綱を加味して次のプランを考える趣旨は理解した。取組を止めることではないことを聞いて安心した。
- プランⅡの計画期間を延長することに意見はないか。
⇒ 委員了承。

(2) 安全衛生通信 No.4 について

<事務局>

先ほど報告した公務災害について、これまで取り上げる機会がなく、令和3年度、4年度では件数が多かったこともあり、事故防止の啓発を行いたいと考えている。

また、学校職場環境改善プランⅡの報告として、プランⅠからの取組みを振り返りながら、計画期間中の時間外割合や年次休暇取得の推移を掲載し、次年度の取組予定についても紹介する。

<意見交換>

○産業医:数字で示すことは効果的だと思うが、まとめる作業が大変ではなかったか。

⇒プランによって校務支援システムが入ったことにより、このような統計資料が作成できた。

●改めて見ると、これだけ取組みをしていただいて、時間外等も改善されたのに、変わらないと教職員が感じてしまうことは問題だと思う。

⇒学校へのニーズの変化はあると思う。複雑・多様化の中で、子どもたち一人ひとりに対して、また保護者に対しても丁寧に接してきたことで、結果として教職員が負担と感じてしまう場面があるのかもしれない。

●市役所では電話を受ける際は、録音されるようになった。電話でのやり取りはトラブルに繋がりがやすいので、建設的に話を進めるためや、言った言わないを防ぐためにも導入することはできないだろうか。

●留守番電話を設置しているが、18時からの設定としており、定時に合わせていない。児童生徒が下校したことを確認できれば、設定時間を見直してもいいと思う。

⇒市役所でも建築許可の窓口は9:00~16:30としているが、市民課などは8:30から変えられていない。ただ、横浜市では8:30出勤し、朝礼・準備、そして8:45に窓口を開いている。そういうところにメスを入れていく必要もあるのではないか。

●前回の会議内容を中学校の校長会で共有し、時間外が減っていることを確認した。年休の取得については、管理職から周知しないと取得率増加に繋がらないと思う。

●年休取得のほか、育児休業が取得しやすい環境にもしたい。人が抜けてしまうと誰かが苦勞してしまうことは現実的にあり、それを管理職が引き受け、結果的に管理職の年休取得に影響してしまうので、管理職からそういった意識を変えていかないといけない。

5 閉会

今年度の協議会はこれで終了となる。

次年度については、人事異動等がなければ令和6年度もこの委員で協議会を開催する。

委員の皆様には、活発なご発言や意見交換、ご提案等をいただき、毎回有意義な会議を開催できたと思っている。今後とも、職場環境改善に向けた取組にご理解ご協力をお願いしたい。